



2019年5月13日

各 位

会 社 名 株式会社フーバーブレイン
代表者名 代表取締役社長 興水 英行
(コード：3927 東証マザーズ)
問合せ先 取締役 石井 雅之
(TEL. 03-5210-3061)

「継続企業の前提に関する重要事象等」の記載解消に関するお知らせ

当社は、本日公表「2019年3月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)」において、「継続企業の前提に関する重要事象等」の記載を解消いたしましたので、お知らせいたします。

記

当社は、前々事業年度において110,712千円の営業損失、前事業年度において15,908千円の営業損失を計上するに至り、前事業年度において、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在すると認識してまいりました。一方、当該事象又は状況を解消、改善するために6つの施策を講じていること及び前事業年度末において840,831千円の現金及び預金残高があることから継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断し、当該6つの施策①販路を拡大するための対策、②新販路の獲得、③新製品の開発、④新規事業開発における施策、⑤組織体制の強化、⑥情報管理や内部管理体制の強化を推進していく旨を公表しておりました。

当社は、2018年6月22日付公表「定時株主総会における決議及び新役員体制に関するお知らせ」のとおり、同日付で新経営体制に移行し、「情報の保護・管理」から「情報の活用」及び「セキュリティ+α」への事業方針の転換を図りました。加えて、持続的な成長を実現するための組織体制の再構築並びに面開拓の営業戦略の一環として新潟及び福岡において新規営業拠点を開設した結果、一定の成果が見られ、業務管理サーバーは前事業年度と比べ54,609千円増加(前年同期比67.6%増)、Webデータベース関連は前事業年度と比べ123,190千円増加(前年同期比3,666.3%増)したことにより、当事業年度は、売上高909,391千円(前年同期比34.0%増)、営業利益16,931千円(前年同期は営業損失15,908千円)、経常利益21,464千円(前年同期は経常損失10,819千円)、当期純利益23,153千円(前年同期比65.6%増)と営業利益及び経常利益における黒字化並びに当期純利益では増益を達成しました。

このような状況に加え、今後、収益体制の再構築が達成しつつあると見込まれることから、現時点において、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しないものと判断し、「継続企業の前提に関する重要事象等」の記載を解消しました。

株主様をはじめとするステークホルダーの皆様には大変ご心配をお掛けしましたが、今後も更なる業績

及び企業価値の向上に努めてまいりますので、引き続き、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

以上